



さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 8 令和6年3月13日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

大きくなったよ！（花組）

3月になり、シール帳を見せながらAくんが「先生、今日から風組？」と嬉しそうに尋ねてきました。保育者が、「4月からだよ。風組になるの楽しみなんだね」と伝えると、「だって僕、足も速くなったもん」とAくん。「私は、お箸もてるようになったからもう風組さんみたいでしょ？」とBちゃん。「僕は、ジャンプがたくさんできる！」とその場で何回もジャンプをするCくん。保育者が「みんな、大きくなったな～。4月はさ、お母さんと一緒にシール貼っていたのに、もう自分たちで準備したり、シールを貼ったりできるようになったもんね。」と言うと、シール帳の後ろにある身長と体重のページを開き、「ほら、大きくなって！」とBちゃん。本当に、心も体も大きくなっていると感じるこの頃。子どもたち自身も同じように感じているのがわかりほっこりしました。

先日、お別れ遠足が雨で、遊戯室で星組さん風組さんと一緒にシートを広げ、お弁当やお菓子を食べて遠足ごっこをしました。いつもと違った雰囲気の花組の子どもたちは、少し緊張している様子でした。星組のお姉さんが花組さんに「卵焼き好き？」と尋ね、小さい声で「うん。」と答えるDちゃんとEちゃん。何気ない会話から、少しずつ打ち解けた様子で、お昼からも星組さんと一緒におままごとやしっぽりをして遊んでいました。その日の帰りの会では、ほとんどの子どもが、「星組さんとお弁当食べたのが楽しかった！」緊張していた会話できたかな？と思っていた



子どもからも「め～ちゃくちゃ楽しすぎたから、また一緒にお弁当食べたい！」という感想も聞けて、しっかりお兄さんお姉さんたちの優しさを感じながら過ごせたのだと感じました。

最近では、自分達から風組さんに「一緒に遊ぼう。」と声をかける姿も増えてきました。「風組さんに戦いごっこしよう。って言ってきた！」と誇らしげなFくん。風組さんが「戦いする前に敵をつくるから手伝ってくんない？」と言いにきました。Fくんや近くにいた花組の男の子たちが「わかった。」と風組さんと、カラーポリ袋に新聞紙を詰めてマイクラフトというゲームの敵と一緒に作りました。そして、花組の女の子たちも、「い～れて！」と衣装を着てステッキを持って来ました。風組さんから「じゃ、花組は家をつくって。」と頼まれ、張り切ってソフト積み木で家を作りました。敵も家も完成すると、風組さんから「みんなは、家にいてね。夜になると敵が来るから、持っている剣でやっつけてね。」と言われ、花組の子どもたちは、思い思いのヒーローやプリンセスになりきってイキイキと戦います。風組さんが、つくった敵を持ちながら「やられた～」と倒れる真似をすると、花組は「やった～、私たちの勝ちよ！」と大喜びで、何度も繰り返し遊びました。次の日も、「風組さんとマイクラごっこして遊びたい！」と子どもたち。自分達で敵役になったり、風組さんと同じような剣をつくりたりして遊びを進めていきました。



星組さんや風組さんの優しさを感じ、また、たくさんの刺激をもらいながら、自分達でも同じように遊んでみようと思ったり、友達に優しい言葉をかけたりしながら遊びを進める姿にまた一段と成長感を感じます。遊びが深まると、子ども同士の会話も楽しく豊かになっています。友達の良さを感じ、互いに認め合いながら「それいいね！」「僕やってみる！」「私も手伝う！」などのような会話も増え、花組の仲間になっているのだなと嬉しく思います。これからも大切な仲間とたくさん遊び、星組さん風組さんのように優しく・かしこく・たくましく成長してほしいと思います。1年間、ありがとうございました。（尾川）

星組になれる？（風組）

給食体験をする星組さんの様子を、遊戯室の窓にぴったりはりついているぞき込む風組の子どもたち。翌週も「星組さん、今日も遊戯室で食べてる！」「星組は一年生になるんよ」「小学校は、給食

を20分で食べるんだって」「給食になったらデザートは出ないらしい。お姉ちゃんが言ってた」と、風組のお弁当の時間の話題は、星組さんの様子や小学校での給食の話でもちきりです。保育者が「4月になったから一年生になるのではなくて、今から毎日少しずつ準備をして、一年生になっていくんだよ」と伝えると、「星組が一年生になったら、僕たちが星組！」とAくん。その言葉を聞いて、急に星組になったような表情になる子どもたち。保育者が「みんなも星組さんと一緒に、毎日少しずつ星組さんになっていったらいいよ」と話すと「星組パワーを溜めるぞ！」とBくん。その日から、星組パワーを溜める方法を考えて実践し、帰りの会で「もう、（足から）おへそくらいまで溜まってよね」「僕はこの辺（口元）まで溜まったと思う」と、星組パワーの溜まり具合を、友達と確認し合うのが日常になりました。

そんなある日の帰りの会で、「トイレのスリッパがぐちゃぐちゃだったからきれいにした」「Cちゃんが、Dちゃんに大丈夫って心配してたから、それって星組パワーやん」という子どもたちの会話が聞こえてきました。そこで、保育者が「今の話は、自分じゃない誰かのために何かをしたら、星組パワーが溜まるってことだね。今の星組さんも、自分以外の人のために頑張ってきてくれたね。そのことに、みんなが気づいてくれて嬉しいよ。そんな星組さんのために風組さんができることあるかな？」と話すと「ありがとうって言う」「手紙を書く？」「プレゼントつくるとか…」と子どもたち。こうして、風組はお別れ会に向かって進み始めました。二クラスの子も子どもたちが集まって、たくさん話し合いました。お別れ会をどんな会にするかアイデアを出した人。星組さんに贈る言葉を考えた人。会場を飾るためにおうちで折り紙を折ってきた人。折り紙の本を図書館やお姉ちゃんから借りて来てくれた人。星組さん全員分の封筒をつくった人。看板やプログラムを書いた人。当日流す音楽を選んだ人。それぞれが自分の好きなことや得意なことを活かして、お別れ会の準備をしました。毎日少しずつお別れ会の準備をする日々は、風組にとってとても楽しい時間でした。

中庭で、みんながつくった輪飾りを一本につなげようとしていた日がありました。「つながったら、絵本コーナーまで届くんじゃない？」「待って、まだ引っ張らないで！」「あー、切れた」「またつなげたらいいじゃん」と、ワイワイにぎやかに輪飾りをつなげていると、その声に気づいた星組さんが「何やってるの？」とやってきました。お別れ会の準備をしていることは、星組さんには内緒にしていたので、星組さんの登場に、その場にいた風組全員

が「星組さんに見られちゃった。どうしよう」という気持ちになったと思います。そのとき、風組のEくんが「へびつくってるんだ」とナイスな切り替えし。「そう、そう」とみんなも合わせます。なんと機転の利く対応で驚きました。

そして、ついに迎えたとお別れ会当日。星組さんに「ありがとう」と言ってもらったり、星組さんの笑顔を見たりして、「星組さん喜んでたね」と嬉しそうな風組の子どもたち。星組の先生やいろいろな先生たちからも頑張りを認めてもらって大満足のお別れ会になりました。

自分の思いと友達の思いとがぶつかって、悔しかったり悲しかったりすることを繰り返してきた風組の毎日。そんな子どもたちが、自分ではない誰かを思いやる子どもたちに成長しました。風組での経験が、星組での充実した楽しい日々につながり、一人一人の良さがますます大きく花開くと信じています。こんなに楽しい毎日をとともに過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱいです。一年間ありがとうございました。(中原)



ドキドキ・ワクワク もうすぐ1ねんせい!(星組)

子どもたちは、卒業に向けての活動や行事など、忙しくも充実した毎日を過ごしています。時間を見つけては大型ブロックや箱積み木を拠点としながらのごっこ遊び、工作、大勢の友達との鬼遊びや思い出のダンスなど…これまで楽しんできたいろいろな遊びをしたり、年下の友達を遊びに招いたりしながら残り僅かな園生活を惜しむかのように遊んでいます。

2月半ばより、風組さんに園内の掃除や片付けパトロールの引継ぎをしました。自分たちも前の星組さんから引継いで教えてもらったことを思い出したのか「グループごとに教えたい」という声があり、数日に分けてグループごとに教えることにしました。風組さんとペアになり、遊戯室やテラスをホウキで掃きながら道具の使い方やゴミが溜まりやすい場所など自分たちの経験から知らせる子どもたち。中には、「そうそう、



上手だね」「すごい、よく見つけたね」など褒め上手な子どももいて、風組さんも思わずにっこり。最後は、園内をパトロールして忘れ物や落とし物がないか見回りをしていることを伝え、みんなで一緒にパトロールに向かいます。忘れ物は、優しく声を掛けてその人やクラスに届ける姿を風組さんに見せていました。引継ぎが終わる頃、最後まで頑張る風組さんの姿を見た子どもたちは、「星組になれるね」と声を掛けたり、「星組になったら新しいお友達に優しくしてね」とエールを送ったりしていました。「任せたよ!」そんな気持ちになったのでしょうか。その気持ちはきっと風組さんに届いたことと思います。

給食体験にも少しずつ慣れてきた頃、楽しみにしていた5年生との交流がありました。ドキドキ、ワクワクしながら学校に向かうと、5年生が笑顔で温かく迎えてくれました。子どもたちのために楽しい企画を考えてくれた5年生。かくれんぼミッションでは、校内をハンターから見つからないように逃げながら、様々なミッションに5年生と取り組みます。見つからないように動くスリルを味わいながら、かくれたり、一緒に考えたりする中で心の距離がぐーんと縮まっていた。活動の中で「学校っていろいろな教室、部屋があるんだね」「優しくておもしろいお兄さん、お姉さんがいるんだな」と感じたようです。また、勉強を楽しみにしている子どもたちに向けて教科ごとのブースを設けてのミニ体験学習の企画もありました。案内役の5年生と一緒に各ブースをグループで回りながら、「こんな勉強するんだ」「これ、知ってる!」「〇がもらえて嬉しい」「小学校楽しみだな」などの声がありました。活動後は教室を借りて5年生と一緒に給食も食べました。子どもたちが1年生になる時に6年生になるお兄さん、お姉さんたち。温かい笑顔を向けてくれる、助けてくれる、そんな存在がいることは心強いですね。就学への期待もさらに高まったことと思います。4月の再会が楽しみです。

好きなことへのまっすぐな気持ち、そしてその気持ちを原動力に世界を広げていく姿、できるようになりたい思いをもって諦めずに挑戦する姿、友達の気持ちに気づきそっと優しく寄り添う姿、そんな子どもたちの姿に何度も心を動かされてきました。幼稚園



でのたくさんの思い出を胸にこれから小学校でも自分の力を発揮していくことと思います。そんな子どもたち一人一人のことをいつまでも応援しています。(中野祐)

交流の復活!(全園児)

コロナ禍で中断していた小学校・中学校との交流が、本格的に再開し今年度はたくさん交流する機会がありました。

中学3年生との交流では、中学生が中学生なりに幼稚園児の発達を考え、子どもたちの興味関心があることをもとに工夫してマイクロビットを使った遊びを用意してくれました。マイクロビットを使った遊びをする前には、一緒にお弁当を食べる機会がありその時間がとても充実した時間になりました。最初は、初めて会う大きなお兄さんお姉さんに、少し緊張していた幼稚園の子どもたちでしたが、中学生と一緒に弁当を食べながら、好きな遊びや好きな食べ物の話で仲良くなろうと話しかけてくれたので、あっという間に距離が近くなり中学生のことが大好きになりました。中学生が根気強く温かく話しかけてくれる姿がとても印象的でした。幼稚園の子どもたちも、そんな中学生に嬉しそうに甘え、幼稚園の子どもたちにとっては少し難しい話でも大好きになったお兄さんお姉さんの話ならばと、興味をもって聞こうとしている姿が素敵だと思いました。子どもたちの表情が、保育者に見せる表情とはまた違う表情だったことも嬉しい発見でした。交流後には手紙のやり取りも行われ、園児が書いた手紙が、中学校内に張り出されていたそうです。ご飯を一緒に食べるということは、お互いの距離を近くし、相手のことを知るきっかけになるということに改めて実感した時間になりました。

5年生が、星組だけではなく全部のクラスで、絵本の読み聞かせをしてくれました。真剣な表情で絵本を読む小学生と、同じくらい真剣な表情で聞き入っている幼稚園の子どもたちの姿がとてもほほえましい温かい時間でした。年齢が近いお兄さんお姉さんに、優しくしてもらった経験や温かく接してもらった経験は、目には見えない深いところにしっかりと刻まれたことなのでしょう。小学生から優しさもらった子どもたちが大きくなったとき、次の小さな子どもたちへとその優しさをつないでいってくれると信じています。

今年度の小学校や中学校との交流で、小学生や中学生を身近に感じられる学園の良さを活かしながら、これまでの園児たちが伝統としてつないできてくれた優しさや思いやりをこれからもつないでいきたいという思いがより一層強くなりました。(中原)